

であるにもかかわらず、そうした地図を十分に生かしたノート作りの工夫がなされていなかった。

工、知識の詰め込み的な地図指導に偏り、地図を通して地域の変容を発見したり、楽しみを味わらせる工夫や手だてに欠けていた。

オ、小・中・高等学校における系統的な地図学習の内容が十分に理解できていなかった。

そこで、生徒の主体的な学習活動を促して、日頃から地図を読んだり、地図を描いたりしていくような略地図中心のノート作りに改善と工夫を加え、継続的に授業を進めていくことによって、読図・作図の能力は高まっていくのではないかと考えて次のような仮説を設定した。

## 二、仮説

### (1) 仮説

地理学習の指導において、略地図中心のノート作りに工夫を加え、継続して指導すれば、読図や作図の能力は高まっていくであろう。

### (2) 仮説のための理論

#### ①「読図」能力

地図に表わされている記号や約束を正しく読みとる初歩的な読図からやや高度な読みとりまでを総合的に読図として取り扱う。

例、地形と田畑及び農産物の分布状

態さらに事象相互の関係、因果関係、比較、総合把握をさせるなど。

#### ②「作図」能力

生徒は地図をどのように描くことができるか、といった作業的学習などの初歩的なものから、やや精度の高い図法までを総合的に取り扱う。

例、距離や長さを測定する。図の拡大と縮小をする。さらに土地利用図や集落分布図を作る。高度帯の着色をする。

#### ③「継続」能力

年間を通して系統的・計画的に略地図中心のノート作りを進める。

### 三、計画、省略

### 四、概要と考察

#### (1) 研究の経過

小学校から中学校まで「地図」指導についての系統化を明確にした(省略)こうした地図指導における学年系統をみると、観察学習を重視し地図を読み、かつ描くことの楽しさを味わわせようとする意図が読みとれる。地理学習は本来「野外が第一の教室であり、地図が第二の教室」である、といわれている。それは、野外観察と調査活動において地図を通してその地域を把握することにねらいがある。

そこで次のような方法によって読図と作図の能力を高める学習活動を展開した。

ア、野外観察と調査の実践(総時数十一時間・詳細は省略)

イ、読図・作図の能力を高める指導

## 資料1 地形図の読図指導 一 資料活用の能力一

本時のねらい

- (1) 安積疏水が出来る以前の土地の様子や当時の人々の生活の様子について、とらえることができる。
- (2) 地形図や土地利用図を積極的に利用し、それらに習熟する。

段階	学習内容・活動	時間	指導上の留意点、読図
課題把握	1. 学習課題を確認する。 地形図や土地利用図は、どんな性格をもち、どんな役割を果たしているのだろうか。	7	● 共通課題を明確にし、追究力を高めさせる。 ● 安積疏水がつくれた理由について、自由に発表させる。 ● 阿武隈川、笹原川や逢瀬川なども周辺に流れているが、なぜ開発に利用されなかったのかを考えさせる。 ● 当時の人々の生活の様子を想起させる。(灌漑用水、飲用水などもふくめて)
	2. 100年前の土地のようすについて予想をたててみる。 ● 阿武隈川の流が大きく曲りくねって、低い所を流れている。 ● 荒地が多く、開発されていない。 ● 田や畑が少ない(逢瀬川との関係はどうなんだろう)		
課題追求	3. 安積疏水ができる以前の郡山と現在の郡山とを土地利用図から比較し、違いを調べる。 ● その違いをノートに記し発表する。 荒地、沼や池が多い。 集落や田畑が少ない。 ● 田や畑や集落の位置を確かめ、荒地より低い所にあったことを調べる。 ● 田畑や集落の近くに川や沼がある。 ● 川や沼から離れた人々は、水をどのようにして運んだのだろうか。 ● 川や沼から水を引いて生活している人々にとって困ることはどんなことだろうか。	20	◎ 新旧の土地利用図を小黒板2枚を使用して比較させる。 ● どういう所に、土地利用の違いがあるかをとらえさせる。 ● 田、畑や集落が川や沼の近くにあってことに気づかせ、生活と水との因果関係について考えさせる。 ● 川や沼の付近に田畑や集落のあるわけをとらえられるようにする。
	4. 荒地が多いわけを考え、グループで話し合い発表する。 ● 地形図の読み取り ● 川や沼の水の利用 ● 水不足の時の人々の工夫と努力	15	◎ 郡山の地形図を小黒板で示し、郡山盆地の様子を概観させ、猪苗代湖、郡山中央平地、阿武隈川を例に土地の高低について考えさせる。 ● 地形の断面図を作成させて、その見方を理解させる。 ● 水が得にくいわけを資料から読みとらせる。
まとめ・発表	5. 本時の学習課題についてまとめる。 ● 各自がノートにまとめ、発表する。 ● 自己評価記録表に記入する。 6. 次時の学習課題について話し合う。	8	● 学習課題をまとめながら、内容をどれだけ理解したかを確認する。  〈T P〉による復習テスト ● 本時の学習内容の不十分な点をふまえて発展的に、課題を設定させる。